midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

March 2015 No.391-392

３月号の１枚：Forest Novaの卒業生たち

緑のダム・森の学校

「相模湖・嵐山の森」全体が既に「緑のダム・森の学校」として機能している

当会活動林「嵐山の森」の入り口、市道沿いに10零級～12零級（50～60年生）の杉林があります。昨年、1.1ha強（約350坪）を協力協約制度により間伐して林内乾燥９か月を経過して、今年１月からこの間伐材の搬出に取り組み始めました。

石井会員を搬出班長として、いろんな試行錯誤だったでしょうが、搬出班は随分と苦心して搬出木道を作りました。この日の朝礼で石井班長は「今日、10本程度は出す予定です」と言いました。私は午前中、基地周りの清掃・整理整頓をして午後、搬出現場を見に行きました。既に、４m材・約20cm径の伐出木12本が道路沿いの木場（集材場）に出ていました。搬出作業の一部始終を見せてもらいましたが、林中から急こう配の木道を下げおろす搬出作業班の作業振りは慎重・機敏、安心して見ておれました。その後、花畑班、木工班、ノバの森・ノバ搬出材置き場、望星・なみすけの森と見て回りました。活動終了・終礼後の帰り道、市道沿いの搬出材仮置き場には計画を上回る三十数本が山積になっており、その場から見上げた杉林斜面は、髭剃りあとの好い男の表情をしていました。

1月最初の活動後、実施した参加者全員の今年の抱負は、年齢を問わず深い内容を伴うものでした。「“緑のダム・森の学校”に取り組みたい」と言う会員もいました。考えようによっては斎藤会員の“緑のダム・体験学校”のノウハウが積みあがってきており、校舎はないが「嵐山の森」全体が既に「緑のダム・森の学校」として機能しています。いろんな大学からの若者たちの参加も徐々に増えており、この森から巣立つ若者の多くが森林・林業に進んでおり森林NPO冥利に尽きます。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.03

3月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

3月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

2月1日（第一日曜日）

2月１日に行われた小原定例活動では、前回までの活動で確かめたハイキングコースに設置する道標作りを、参加者全員で行いました。この道標は、小原の山のハイキングコースは、道がわかりにくいものや分岐点が多く迷いやすい為、迷わないための目印として設置しようということになりました。実際、今までの定例活動時のハイキングコースの確認作業では、途中で道がわからなくなり何度も迷ってしまっていました。

活動当日、山には前の週に降った雪が、まだたくさん残っていて拠点近くの気温はずっと0度のままでした。作業の方は２人一組、手作業で行い１メートルと1メートル50センチの丸太を端から30～40センチほど、切った面と面が直角よりもやや鋭角になるように縦に2ヶ所切りました。私が加工を行った丸太は、１メートルと他の丸太よりも短かったのですが、節が多くなかなか切ることが出来ず、午前中に片面も終わりませんでした。昼休みまでは、丸太を寝かせて切っていたのですが、丸太の上に乗って固定するには１メートルでは短く不安定なままで切りにくかったので、午後からは丸太を立てて切ることにしました。立てかけて切ってみると、丸太が自分の目線に近くなり前屈みの姿勢になることがないので、のこぎりを使うときに力が入りやすく、作業のスピードが上がり、無事に2ヶ所切り終えることができました。しかし、切った面と切っていない面の間を滑らかにすることができなかったので、とても不格好な見た目になってしまいました。この日は全体で7本作ることができましたが、チェーンソーの調子が悪く、手作業で行っていた為、断面がかなり粗くなってしまいました。そのため、また新たに道標を作る場合は、チェーンソーを使えるようにして、それを用いて作業をすることになりました。

今回の作業が思うように行かなかったのは、手作業で行ったことや節が多かったことの他に、雪が降った為に丸太が水分を多く含んでいたことが原因だと思いました。次回からは、材管理の徹底や作業前日に雨などが降っていない日に決行するなど、対策していきたいです。

今回の活動で同じ作業でも少しやり方を変えるだけで、作業効率や疲れがとても違うとわかったので、今後の活動では、その日に行う作業がどんな方法でやるのが適切なのかを判断して行えるようになりたいと思いました。

中嶋　竜太（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

2月15日（第三日曜日）

昨年２月の活動日は思いがけない大雪のため中央線高尾駅までしか電車が行かず、近くの公民館で勉強会を開くこととなった。そんな悪条件をものともせずに多くの参加があり、会員の森への熱い思いを改めて強く感じた記憶がある。今日はその時とは打って変わっての素晴しい晴天。参加５７名の力が思い切り発揮できることだろう。

嵐山の玄関口であるお花畑ではこれから降るかもしれない雪に備えてモッコウバラのアーチの修復・補強を行っている。班長である丸茂さんの指導のもと作業は着実に進む。春の花景色がいまから楽しみである。森林整備班は先月に引き続き間伐材降ろし。どういう訳かいつもは活動の受付を担当している伊藤さんが加わっている。力の要る作業ではあるものの、楽しそうな笑顔が印象的。一方、班長の川田さんは日がな一日、チェーンソーの点検・整備に黙々と取り組んでいた。まさに縁の下の力持ちである。

さて、いつもは多い高井戸中の参加はＯＢを入れて５名と今回は少なめ。しかし、フォレストノバは総勢２７名。早稲田大、法政大、学芸大、東京農大の学生たちも加わって賑やかである。来月の定例活動日が麻布大学の卒業式に重なるため、４年生は最後の参加となる。作業の前、その４年生たちに卒業記念のプレゼント（写真を貼ることのできるコルクボード）贈呈があった。例年の行事だそうだが、心温まる光景である。その後は森林散策、間伐、木工、カブトムシ牧場用の落ち葉集めを行った模様。

昼食時には５月に開催される「相模原市若葉まつり」に出展予定の長瀬さん作「潤ちゃん号」が披露される。小さな子供が乗るこの木製三輪車の周りには何名ものメンバーが興味深そうに集まっていた。完成はこれからのよう。

午後。木工班のＭＯＭＡ工房からはトントントンという心地よい槌の響きが森に響く。柱材のほぞ穴を彫るノミの音。その音に誘われるように各班の作業は進んでいく。森林整備班は３２本もの材降ろし。高井戸中は望星高校と協力してスギを２本間伐。生命の森宣言東京も下刈りと間伐を完了。このところ実労働をしていない私も久々にノバの木工班に加わりコルクボードの額づくりに専念することができた。

ノバの卒業する先輩たちへの思いが槌の音と重なり、いつまでも心の中に響いていた一日であった。

内野　郁夫（本会理事）

[報告１]
嵐山でのお箸作り会

2月6日（金）、相模湖の若柳・嵐山の森にてお箸作りの会を開きました。そのイベントには大阪大学大学院の方や東京都市大学の方など様々な大学から四名の学生とForest Nova☆から三名の学生が参加しました。このお箸作りの会は大阪大学院の学生の方からお声を掛けていただき実現することが出来ました。この学生の方と出会ったのは四年前の全国大学生環境活動コンテスト（ecocon2011）です。このコンテストのグループ選考の際に同じグループになり、互いの活動を発表したのが始まりです。結果的にはForest Nova☆が決勝選考に上がることになりましたが、私たちの活動を理解してもらい、決勝選考でも応援をして頂きました。それからはほぼ毎年の長期休みに自団体の学生や他の団体の方々と嵐山の森まで来て、山頂までの道のりを一緒に散策したり、Forest Nova☆の森の木材を使用して木工をしたりしています。

今回の箸づくりの会は午後から嵐山の森に向かいました。参加者の半数が嵐山に来るのが初めてということもあったので、嵐山の散策から始まりました。散策では雪の積もっている中、Forest Nova☆の森～水源の見える橋～山頂という流れで登っていく予定でしたが、中腹から山頂までの坂道に雪が積もっていたため、危険と判断して違うルートを用いて下山をしました。しかし天気はとてもよく、山の中腹からでも、とても良い景色を見ることが出来ました。山から無事に下山した後は、Forest Nova☆の森の木材を使用してお箸作りを行いました。皆さんが全く違うお箸をつくり、中には自分の手に合ったお箸を作った方や串のように細いお箸など、その人の個性が出たお箸が完成しました。最後はそのお箸で焼き芋や玉葱などを焼いて食べました。実際に自分で削って磨いたお箸をすぐに使ってご飯を食べられたのが、参加者の方からとても好評でした。

数年前のコンテストのグループが一緒でお互いの発表をした事がきっかけで、始まった私たちの知らない森での交流。でもその関係が今でもつながっていて、私たちの森に来たいという方々がいます。毎月の活動に参加していただくことは、中々難しいことかもしれませんが、その一度の森に来てもらう機会に、より森を感じて森のことを考えてもらえるように自分たちも考えていきたいです。

釜谷　優太（Forest Nova）

[コラム]「森の話」第9回
シダという植物

シダ植物は花を咲かせません。種子もなく、胞子で繁殖します。ちょっと見には地味。しかもどれもよく似ているため、関心を持たれることはあまりないように思われます。しかし、へそ曲がりなのか、花屋さんに売られている豪華なランよりも私は何故かシダに惹かれます。これはキノコにもいえることです。

緑のダムの活動拠点である嵐山にはヌリワラビ、サイゴクイノデ、小原の森にはキヨスミヒメワラビ、ツヤナシイノデなど神奈川県内ではかなり希少なシダが分布しています。嵐山の特に寺跡付近はシダの隠れた宝庫かも知れません。大事にしたい区画です。

では、シダとはそもそもどのような植物なのでしょうか。

クックソニアと呼ばれる植物があります。４億１０００万年前、古生代シルル紀中期の地層から発見された植物で、植物体化石としては最古のものです。高さ１０ｃｍと小型で葉、茎の分化はなく、２分岐した軸の先端に胞子の入る丸い袋をつけた極めて単純な形態をしていました。しかし、この植物は水や養分の通道組織こそあるものの、それが木質素と呼ばれるリグニンで強化されることはなく、姿・形からもシダでもなければコケでもない植物だったと考えられています。

その後のデボン紀になると通道組織の細胞壁が二次的に肥厚・強化された植物群が登場しました。リニアです。２分岐した体制はやはり小柄で、現在のマツバランに似ていたようですが、これが現在見るシダ植物の直接の祖先かどうかは不明です。

さらに時代を経て石炭紀になると蘆木、鱗木を初めとする樹高２０～４０ｍにも達する大型シダの大森林が地上を広く覆うようになりました。シダ植物の全盛期です。恐竜たちがわがもの顔にのし歩くよりもずいぶん前のこと。いま人間が利用している石炭の多くはこの時代に堆積した植物遺体によるものです。そんな古い時代から現在に至るまで、シダは変わることなく胞子によって子孫を残してきました。

シダの葉の裏を見ると、茶褐色をした袋状の組織に気づくでしょう。胞子嚢と呼ばれるもので、ここから胞子が飛散されます。胞子は条件のよいところに到着すると発芽し、やがて前葉体と呼ばれる小さく薄い植物体を形成します。ここには精子をつくる器官と卵をつくる器官が存在します。例外はありますが、この時、運よく雨が降り湿った環境になると、前葉体から精子が水中を泳ぎ、近くにある同種の前葉体の卵に到達し、そこで初めて受精が行われます。幼植物の誕生です。

ただ、この繁殖方法には難があります。前葉体が非常に脆弱であること、受精するためには水が必要であり、なおかつ近くに運よく同種の前葉体がなければならないという制約があり、あまり効率的でないことです。現在もっとも繁栄している種子植物は卵が親植物にとどまり、雄胞子（花粉）を待つという仕組みになっています。花粉の運び手は風や昆虫たち。後者を呼び寄せるため、花は蜜を用意するようになりました。いかに確実に、効率的に子孫を残すか。そんな工夫の歴史を植物たちはたどってきたようです。

種子植物はシダ植物から進化、発展しました。何億年という気の遠くなるような歳月の中で試行錯誤を繰り返し、幾多の絶滅を経ながらも現在に至っています。

話は変わりますが、私の好きなスイス人画家パウル・クレーの絵にはしばしばゼンマイのようなシダを想起させる形象が登場します。バーゼル美術館に収蔵されている「アド・マルギネム」は彼の最高傑作のひとつですが、作品にはこの世界の始原、生命発生の謎を鋭い感性で見つめ捉えたクレーの想像力が見事に結晶化しているように思われます。シダ植物はその象徴だったのでしょう。

太古の面影を残すシダ植物。そこに秘められた遥かな時間が私を魅了するのかもしれません。

内野　郁夫（本会、理事）

[連載１]
相模湖・若者の森づくりから

　地球環境部では、この冬も枝打ちを行いました。枝打ちはそのハシゴの高さ、スリルからくる緊張感、そして枝打ち後の達成感が特に多く、生徒に人気のある作業です。先月活動した生徒の感想をご紹介します。

　僕は、枝打ちがとても楽しく感じました。しかしもともとぼくはあまり枝打ちが楽しみではありませんでした。間伐に比べ少し地味な印象があったからです。ですが、枝打ちを始めてみると印象はがらりと変わりました。確かに、木に登るのは少し怖くて、また手がかじかみます。作業も地味です。しかし、あたりに光が差し込んだ解放感や、木の上から見る景色、木が一本終わったときの達成感は他にはないものがありました。これから枝打ちは２、３カ月行います。僕は、枝打ちを楽しみながら、より森の整備がより進み、よりよい森となっていくよう手早くかつ丁寧に作業を行いたいです。（１年男子）

　僕は枝打ちの作業をしました。最初やった時は少しのぼると怖くなって、全然切れませんでしたが、二回、三回、とやってみると、枝を切るのに夢中になって、高さなんて全く気にしなくなりました。何回かやっていて、僕は枝打ちの楽しいところがわかりました。一つ目は、すべての枝を切った時とてもすっきりするのがとてもストレス解消になります。二つ目は、高いところでの作業が、とてもスリルがあるところです。何回もやっていて、慣れてはいましたが、やはり高い所に行くと怖くなってしまいます。でもその場所で作業をするのはとても楽しいです。今回の枝打ち作業で、新しい作業ができたのはとてもうれしいです。今回の経験を今後の作業に生かし、よりよい森を作っていきたいです。（１年男子）

　私は初めて森に行きました。森に行くまでの私は森をあまく見ていました。しかし実際に森に行き、作業などをするにつれてすごく大変で、木に登ることがやっとでした。そして林業をやってらっしゃる方の思いがすごくわかり、今自分がやっていることは、すごく責任のあることなのだと感じました。私は森へ入って一番最初に気付いたことは、光がはいっているところもあるが、入っていないところも意外と多いということでした。そして、急な斜面で作業がやりづらかったことも印象に残りました。毎日そんな苦労をしている林業の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また、貴重な体験ができいい経験になりました。次回も必ず参加します。（１年男子）

　初めて枝打ちを行った１年生らしいコメントだったと思います。これからも安全に配慮し作業を続けたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[報告２]
南相馬市の
ボランティア群像

　平成24年10月私が薄井・小野両君と南相馬市の災害復旧復興ボランティア活動に参加して以来早くも2年半が過ぎようとしている。この4月末に予定している活動も含めると私達の活動も延べ七回を数える事となる。各回の活動内容等に関しては都度報告をしてきたが、今回は視点を変えて、私達と同じ日に活動されていた別グループ等で私の記憶に残った方々を三例報告したい。

[1] 私達が初めて参加した平成24年10月の活動の時、鹿島地区のボランティアセンターに集合したところ茶髪・剃り込みの頭で多摩ナンバーのオートバイに乗り後ろに女性を乗せた如何にもヤンキーと観られる青年がいた。センター集合時間のＡＭ8:45に間に合う様彼等は前日に多摩を出発し夜中走ってきたと言う。そしてマッチングで割り当てられた作業場所に其処で使う必要な道具を積み込み黙々と出発して行った。

[2] 平成25年7月小高地区の津波に襲われた民家での作業の時、名古屋から観光バスを仕立てて来た「中日ドラゴンズ」私設応援団の若者達10数名と我々老人グループとが協同で作業を行った。彼等は明治神宮球場で行われるドラゴンズの試合の応援の為に観光バスで東京に向う途中(？)、南相馬に寄ってボランティア活動をしに来たのだと言う。作業の内容は水を吸って崩れかけた畳と

か、汚染物が詰め込まれた大きな破れかかった袋だとかを別の場所に積み上げたり、新しい大きな袋に入れ替えるという作業で有った。我々老人の手では可也の時間を要するのでは？と思っていたところ、リーダーと思しき若者が「俺らはバカだけど力は有るから俺らに任せて、おじ(い？)さん達は見学でもしてなよ」と言ってアッと言うまに午前中で片付け、サッサとバスに乗り込んで東京に去って行ってしまった。

[3] 平成26年4月小高クリーンセンターで津波に流されるも回収された遺失物の整理作業の時、トルコ定住の老婦人で日本に居るお孫さんに会いに来た序でにボランティア活動をしに来たと言う(尤もお孫さんの所に2日この活動に一週間滞在と謂うのだから、序でにと言うのは謙遜と解る)。その動機はトルコ国は独立の際に大変日本にお世話になったからと言う。この話をどこかの総理大臣に聞かせたいモンダ。

井伊　直允（本会、会員）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版